

ひかりのこ

# 光の子



No.117 2006.1.1

●今年の聖句 神は言われる。「あなたを見放すことも、見捨てることもない。」  
(ヨシュア記1:5)



謹賀新年

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます

社会福祉法人 光の子どもの家

「あけましておめでとうございます」 挿絵・中島英子

「手毬唄」

なみなみと夕日を溜めて社会鍋

踏切のちんちん年の詰りけり

煤逃げの位牌に厚き日差しかな

行く年の凭れて太き煤柱

自在鉤きらりと年の移りけり

閑伽水に浮きたる塵も初昔

真向ひの山に日が差す手毬唄

黛 執 (『春野』主宰)

「自由」がそこには蔓延していたのだが、今時そんな「自由」を大学全体が満喫し続けたなら、いつの日かその大学は消失してしまうか、吸収合併されてしまうに違い

## 学者もどきのつぶやき ⑥9

### 学長ブログ

山形大学 仙道 富太郎  
学長

化後も国立大学は言葉通り刻々と変化している。大学にはあまり耳慣れない「評価」が導入され、大げさに言えば年がら年中「評価」「評価」で時が過ぎていく。法人化以前の国立大学は象牙の塔と呼ばれたごとく、社会とは没交渉で、何をしてもよいというはき違えた

ない。今の大学は刻々と様変わりしていく。二〇〇四年四月に国立大学が国の一つの機関であることを止め、法人化し、大きな変革があったことは以前にも記したように思うが、法人化後も国立大学は言葉通り刻々と変化している。大学にはあまり耳慣れない「評価」が導入され、大げさに言えば年がら年中「評価」「評価」で時が過ぎていく。法人化以前の国立大学は象牙の塔と呼ばれたごとく、社会とは没交渉で、何をしてもよいというはき違えた

になるのだから、少し下卑た表現を使えば「敵に塩を贈る」ことは無いという話であろう。教育や研究の評価を短期間のスケールで行うことは慎まなければならないが、大学の運営や財務の評価を現在のような形で行うことは必要ではないかと思う。評価のない世界などこの世に存在しないのだから。こうした流れの中で、九月から始まった二年間の二期目の学長就任のときに、この二年間に学長として何をやるかに関する行動指針を示した。題して「仙道マニフェスト」。期限を決めて行うべき施策を約束することは、少なくとも約束した本人をかなり縛る。「あと何ヶ月以内にこのプロジェクトを終了するには段取りとしては」といった具合である。一人よがりになっても困ると思



学長ブログは山形大学の学内ブログで、投稿する人は原則的には記名をしなければならないことになっているが、名前を記して物申すことは勇気の必要なことだとも思えるので匿名可にした。ポツリポツリと反応は出て来たが、私が当初望んでいたように、「学長ブログ」を舞台にして盛んな討論が開かれるといった状況からは程遠い。現場の声に基づいたトップダウンが大学の運営に大切だと言いつつ、こんな状況では独り相撲もいところある。しかし、こんなことでひるんではいられない。「学長ブログのテーマを絞ったかどうか」、「学長への要求事項を投稿させようか」等々駄目学長はそれでもなお奮闘を続けるのであります。

## 新しい時代を 社会的自立支援と家族の再生をこそ

施設長 菅原 哲男

謹賀新年  
光の子どもの家は二十一回目の新年を迎えた。そして、歴史的にはもう一区切りの初年度を迎える。光の子どもの家の暮らしの質量は、子どもが大人に育っていく途上で受けなければならない訓練としての教育的な側面からいえば、開設以来、中学卒業生全員の公立高校進学、この五、六年ほどの間、高校卒業後の五割を超える過酷な選択肢をとっての進学率など、この国の標準的な水準に近づきつつあるだろう。

ら、確かな成長を成し遂げ、かなりマイナスであっただろう家族との関係もほんの少しでも改善しながら、不安と希望をないまぜにした表情で別れを惜しみながら毎年ここを出て行く。さて、児童養護施設にとって制度の整備は喫緊の課題である。現在わが国は、子どもの出生率が世界最低であると言われて久しい時がながれ、長寿をただ祝うわけにはいかない超高齢社会になっている。そして、児童虐待防止法が必要になるほどこの国の子どもたちの状況が極端に悪化しているのである。一個人や法人が出来るだけ上質の養育を提供するために努力をすべきである。しかし、それだけでは児童養護施設に溢れる子どもたちの総量と、子どもたち一人ひとりが負ってくるマイナスの総量は職員などの力量にバランスしないばかりか、職員のバーンアウトや施設内虐待など、悲惨な状況を呈し続けているのである。個人の力を超えた困難を解決するためにこそ政治が機能し、政策が現実即して行われるべきである

国政治・社会・経済・教育・家庭・子育てなど全ての重要な面での展望は不可能に近い。むしろ暗いマイナスへの傾きが激しくなっていく危機が増大しているのだ。それでも、命から逃げ込むようにやってきて、今ここで生きている子どもたちが、生きていくことを喜ばしく確認し、更にによりよくあるために困難な選択肢を選び取る勇気と決意を持って社会へと出発し、社会的責任を果たすことが出来るよう、丁寧に守り育てていかなければならないと心から願うものである。それには政治・政策が力あるものではある。しかし、この二〇年の間、制度や法的に未整備であり、それが子どもにとって利益でありさえすれば私たちはがむしやりに敢行してることが出来た。児童養護施設の社会的責任は、子どもの社会的自立と家族の再生にある。そのことをしっかりと確認し、そのためにこそ、これからは更にその「がむしや性」の必要性の増大と光の子どもの家の精神性が試され続けることを予感してこの年を迎えている。

## エッセイ

## アトリエにて

寒い朝である。私は少し早めにアトリエに行つて、暖房を入れた。

或る交響楽団の人が来る事になつてゐる。そのYさんが部屋に入つた時に、静かなバロック音楽で迎える、という感じにしていこうと思つて、CDをセットしておく。

ご馳走はない。私の彫刻の作品を二、三点見ていただくだけ、そして、手挽きのコーヒーを飲みながら雑談するだけである。つまり、大した用事はないのである。

Yさんは、予定よりも少し遅れてやつて来た。雑草や落ち葉を踏みながら何かつぶやいているようである。

「おはようございます。落ち葉がきれいですね。」

Yさんの第一声が、これである。「きれいでしょう？落ち葉」と私も応える。黄色いいちような落ち葉が、びつしりと落ちているから、私もこれを大事にしている。

「ところでYさん、こんな句を知っていますか？」

《掃くは惜し踏むは尚惜し散紅葉》「いや知りませんね、でも良い句

ですね。」とYさんが言う。

それはそうかも知れない。実は、私もつい先日仕入れたばかりの句なのである。俳句の結社の主宰からいただいた俳人協会のカレンダーにあつたのを、家内が見つけ、私に教えたのである。この句のイメージが、私の家の庭のあたりの様子とぴつたりのように感じられて、すぐ覚えた、私にとってはホヤホヤの句なのである。作者は中森無伴という人。

私はYさんに、その事を白状し「良い句ですね」と同調した。

「Yさん私はね、このあたりの雑草や落ち葉を楽しんでいるんですよ。さつき歩きながら、ギンナンの実をブツブツと踏んだでしょう？私はこんなのを楽しんでるんです。決してものぐさではないんです、不精でもないんです。」

Yさんは神妙な顔をして言った。「ものぐさじゃない、不精でもないんですね。」そして、二人は声を合せて大笑いになつてしまった。私がものぐさであり不精者である

事を、Yさんも充分知っているからだ。

「風流なんですよ。」Yさんは念を押すように言う。「そうそう、どんなに雑然としていても、その事を楽しむ、その事の中に美しさを見いだす、風流というか風雅というか。」私も、もう一度念を押す。

どうも始末が悪いものだ。お互いに心にもない事を、言葉のやり取りをしてふざけているのである。それにしても《掃くは惜し踏むは尚惜し散紅葉》は実感である。実感であるが、私の場合、散紅葉を踏まない訳にはいかない生活である。掃く事は勿論しない。面倒くさいから。

CDの音楽は、バッハのクラヴィアとか何とかいう曲で終わった。これも白状するが、百円ショップで買ったもので、本当の音楽ファンなら怒るような代物なのだろうが、私はただ音が鳴っていれば良いのであつて、指揮者やオーケストラに対して、むずかしい注文はない。

「そうだ、Yさん、この間軍歌のCDを買ったんですよ。聞いてみませんか？」と問いかけると、Yさんは是非と言う。軍歌というのは、戦後は余り聞かれなくなつ

たような気がするが、私の子ども時代には、いつでも、どこからか聞こえていたものだ。ラジオからだったのか、しかしあの頃は、ろくなラジオもなかったし。誰かが歌っているのを聞いていたのか、はつきりしない。それでも、案外正確に歌詞を覚えてゐる。

Yさんは、軍隊の体験が少しあるらしく、恐らく私よりもっと深い感慨をもつて聞くのであらうと思われる。

《敵は幾万》とか《荒鷲の歌》《軍艦マーチ》などと、勇ましい題名の歌が続く。

しばらくの間Yさんは静かに軍歌に聞き入っていた。「軍歌は良いね、日本の軍歌は美しいのが多いね。もち論《いざ来いミニッツ、マッカーサー、出て来りや地獄へ逆落とし》なんてのもありますが、一般に軍歌でありながら、抒情的で美しい曲が多いみたいね。日本の軍歌が余りにも美しかったので戦争に負けたんかも知れないよ。」Yさんはこう言った。

もち論、日本の敗戦はこれが原因とは言えないと思うが、この逆説的な見方は、さすが音楽家という感じで、私はうなづいてしまった。

あなたの天を、あなたの指の業をわたしは仰ぎます。

月も、星も、あなたが配置なさつたもの。

そのあなたが御心に留めてくださるとは

## 続・トムソーヤ達の朝

三恵 永野 日本キリスト教団東大宮教会

人間は何ものでもない

う。人の子は何ものでもない

あなたが願

みてくださる

とは。

(詩編8・4)

新しい年を迎えました。

暗闇が支配

していたかの

様な昨年でした

が、新年の

この時、私達

ひとりひとりに、日本の社

会に世界に神さまの創造の美しい調和と平和が臨んで下さいます様に、切に祈り求めます。

とるに足らぬこの小さき者をも顧みて下さり、その歩みを守り導いて下さることを信じ、希望を持

って今年も踏み出していきたく願っています。

私の歩みは、日曜日に教会学校の子ども達と礼拝を守り、続いて主日礼拝を守ることから始まりま

す。月曜日から金曜日は、公立中学校の「さわやか相談員」として、

子ども達の様々な悩みや相談に関わっています。

さわやか相談員とは、平成八年度に、当時全国的に増加していた不登校やいじめの対策として、埼玉県独自の施策として発足しまし

た。

まだこんなに心理学がもてはやされる様になるとは思いもせず、

「人間とは何ものなのでしょう」の問いが少しでも見つかるかもしれないとの思いで、大学で心理学を専攻した私でした。

卒業後も、子どもの問題に心を寄せていた私は、相談員の公募を知り「これこそ私がしたかった事」との思いで応募し、日市で初

めての相談員となりました。以来十年に渡り、中学生の抱える問題に関わってきました。

初めて出会ったE君は、小学校転校に伴ういじめが原因で不登校になり、不安の固まりの様でした。

当時は、学校の正門までは何と来られても、中には入れませんでした。オドオドビクビクしていたE君に「誰も生徒は居ないよ。大丈夫。安心して入っていらつしやい。」とサインを送ったりした事がなつかしく思い出されます。

相談室は学校の中で孤立して存在しているのではなく、校長先生を初めとして沢山の先生方との連携や、他の生徒達の協力なしでは機能していきません。常に人との信頼関係が前提になっています。

E君も相談員への信頼感が深まるにつれ、相談室に通い、学習もしながら力をつけていきました。

そうした過程を経て、友達や自身への肯定感が持てるようになってきました。受験時には「新しい環境に自分を置いて頑張つてみたい」と、都内の高校を受け、合格しました。

その後のE君は、節目節目で私の喜びの知らせを届けてくれました。三年後には、「永野さん、僕

高校を無遅刻、無欠席で卒業しました。」と、違う中学校に転勤していた私の元に、自転車で駆けつけてくれ、喜びを共にしました。

中学時代には、努力しても教室に出席できなかったE君でしたが、

子どもは成長し、変わることができるとい確信を、私は与えられました。

E君は、自分の辛かった経験を生かし、大学で心理学を勉強したいとの思いを強くし、一年浪人の末、希望が叶えられました。今はもう二十三才。就職も決まり、社会人としての一步を踏み出す決意を固めた頼もしい青年となりました。

十年前には、会えば涙、涙で辛い思いを語っていた母親も「無駄な経験はひとつも無いのですね。」と、今は笑顔で息子の成長を喜んで

います。

その後も、私は成長し変わっていく子ども達の姿を、沢山見る喜びを与えられています。

確かに年々、子ども達の置かれている状況は悪くなり、人と人とのコミュニケーションの力が弱まり、結びつきが脆く臆病になつて

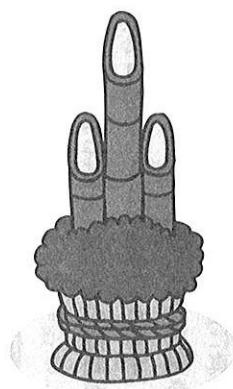
いる面があります。

今、子ども達に一番必要なものは、大人達の確かな優しさや愛であると私は思います。

子ども達の近くに居る私達が、良き存在者となれるよう願っています。

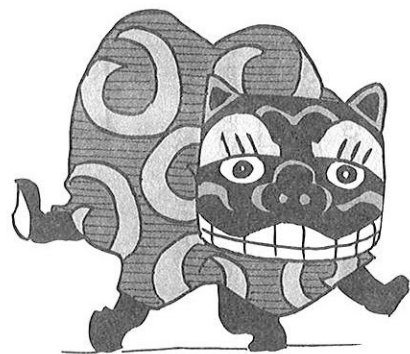


新年明けましておめでとうございます。  
先日光の子どもの家で臨床心理士の村瀬喜代子先生を講師とするケースカンファレンスが行われました。その中で真実告知は実際に告知はしなくても生活の中で共に暮らし、共に感じその人の痛みや重さを共感しどこまでもその人の人生とつきあうこと、そして子ども



田中 要一

どんなに辛い事があっても、どんなに嫌な事があっても子ども達に色々助けられた事を感謝し伝えました。しかし、僕がこの光の子どもの家に来たのは子ども達に助けられるためではありません。今まで助けられ、幸せを与えてくれた分、子ども達に尊敬される大人になれるよう頑張りたいと思います。今年も皆様のご健康をお祈りします。



穴水 祐介

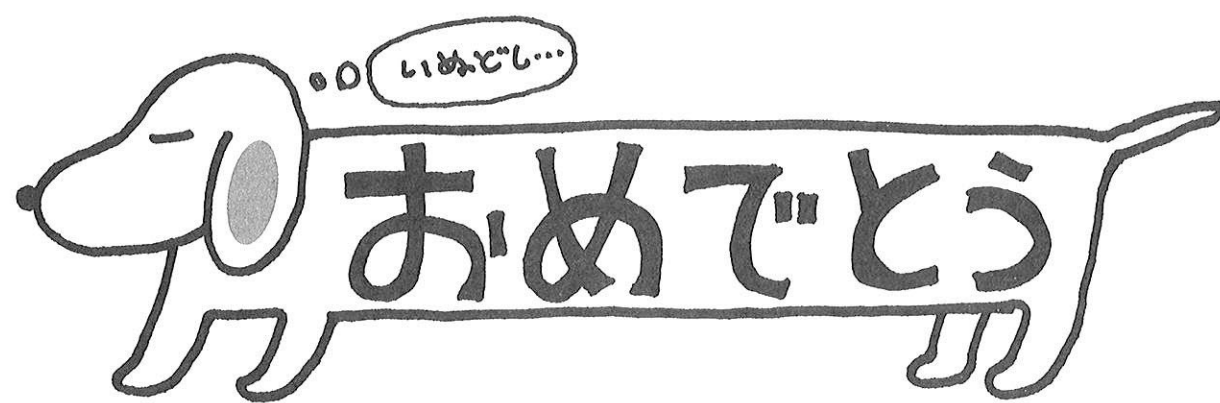
も自身が生まれてきてよかったと思えることも真実告知であると教わりました。子ども達の心の傷は長い時間をかけて共に生きることでは癒すことができないと思います。光の子どもの家の第一回目の卒園生は今年で三十歳になります。子ども達は、卒園後も親の死、結婚、離婚、病気、お金、仕事と様々な問題を抱えて相談にやってきました。子ども達にとって光の子どもの家が実家であり続けられるように、そして一生をかけてここで育った子ども達と共に生きることで我々自身の使命だと思っています。「生まれてきてよかった」と思えるように。



五木田 供三

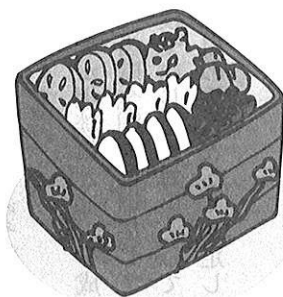
今年度も何人かの子どもが巣立ちますが、しっかりと根を伸ばし自立に向かって頑張る事を祈っています。

新年あけましておめでとうございます。光の子どもの家も二十年経ち巣立った子ども達が子連れで来訪してくれるようになりました。嬉しいことです。家の象徴となっている庭の真中にある樫が順調に育ったかと言うと実は三代目です。土壌が合わないのか肥料のあげすぎか、すんなりとは育ちませんでした。しかし何本目の木から落ちた種子が庭のあちこちに芽を出し自然に育つて今は屋根を越す高さに育っています。



あけましておめでとうございませう。本年も宜しくご指導下さいませう。ここにお願い申し上げます。ここで二十一回目のお正月を子ども達と共に迎えることができましたことを大変嬉しく思っております。神様に導かれ、守られていること、また大勢の方々に祈り支えられていることを感謝して、この年も子ども達と共に前進して参りたいと思っております。新しい年も皆様方のご活躍と、ご健康をお祈り申し上げます。

田中 郁夫



新年明けましておめでとうございます。昨年皆様のお支えにより、子ども達と共に楽しい暮らしを作ることが出来ました。

今年も皆様にとって良い年となりますように。

池田 祐子



新年明けましておめでとうございます!!

今振り返ると昨年は、子ども達の無邪気な笑顔、言葉にたくさん助けられてばかりで、自分自身が笑っていた時は少なかつた様な気がします。同じ一日を過ごすのであれば笑顔の多い日々でありたい、子ども達と笑っていたい、と心から思っています。子ども達と共にこれからも日々成長していこうと思っておりますので、今後ともどうぞ末永いご支援・ご声援のほどよろしくお願い致します。

根本 和

新年明けましておめでとうございます。昨年中は沢山の方々に暖かいご支援を頂きありがとうございます。

明けておめでとうございませう。先日、クリスマススイヴの日に「キャンドルサービス」と言う子どもは担当者へ、大人は子ども達へ普段言えないような事をメッセージにして伝えたいと言う事をしました。

去年は、「幸せだなあ」と思う時間を子ども達にたくさん与えてくれました。



鎌田 洋子

晴れた日には、野のまわりに名のなき山々も出揃って元旦に相應しい景である。子ども達はお年玉を戴いて、それぞれ得意そうな顔をしている子もいる賑やかな元旦の朝である。年々元旦に残っている子ども達が増えてゆくのを見ると、この子達をもっともっと暖かく包んであげようと思っています。

# プ・リ・ズ・ム

河のほとり

倉澤家

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

昨年幼稚園で、お父さんたちがカレーを作り、子どもたちと一緒に食べるという行事がありました。この日は「お父さん」限定で私が代わりに参加するわけにいかかった為、成黎の父親役を男子職員にお願いしました。

「成黎、今度のお父さんたちとカレー食べる日だけど、田中さんにお願したからね。田中さん行ってくれて言ってくれよ。」と、伝えると、「えー田中さん？僕、菅原先生が良かったなあ。」という意外な(?)な返事。

どちらかと言うと、菅原先生には怒られることが多い、田中さんには一緒に遊んでもらっているのだ。

「何で菅原先生がいいの？田中さんのこと好きでしょう？」と尋ねると、「だって田中さんは、お兄ちゃんですよ。お父さんじゃないじゃない

。」と成黎。成黎には成黎の父親像なるものがあり、成黎の描いた父親像と田中さんの間には、若干のズレがあったようです。

彼は様々な事情から、家族の再統合が不可能と考えられています。「家族」の色が濃くなるこの時期も、彼に帰る場所はなく、今年も担当者の実家で過ごします。

彼の成長と共に、家族への疑問が生まれてくるのが予想されます。そして、私たちはいつか彼に真実を伝える必要はありません。彼に真実の傷口を最小限にする為に、担当者としてできることは何なのかを考えると、続けていきたいと思っています。

倉澤 智子

あかり窓

心理室から

明けましておめでとうございます。今年もまた新しい年がやってきました。大人にとっても子どもにとっても、どんな人にとっても二〇〇六年という年は平等に未知の年です。今年の終わりにはいいい一年だったね



積 みどり

とお互いに言い合えるような一年にしたいなあと思います。でもどんな一年だといいい一年だったと言えるのでしょうか？健康に過ごせたら？失敗なく過ごせたら？目標を達成できた？逆に良くない一年ってどんな一年なのだろう？いろいろ考えていた中、「生懸命」というキーワードを思い付きました。このキーワードは先日小学生の持久走大会を見に行った後に思い付きました。ゴールを目指して一生懸命に走る子どもたちのたくましさ胸がいっぱいになる瞬間がたくさんありました。今年もこんな子どもたちと一生懸命に一年を過ごせたら、きつといいい一年になるような気がします。

子どもたちの季節

仙道家

新年明けましておめでとうございます。

夏は海、山などで目一杯遊び日焼けのたくましい顔になり、秋は落ち葉を集めて焼き芋をたくさん食べ、幼稚園や学校の行事で一生懸命頑張つて、楽しいクリスマスも過ぎ、正月のお餅、こたつを心待ちにしている子どもたちを見ると、私たちの生活に豊かさを備えて下さっている皆様に、感謝の思いで一杯です。

五歳になった美歩は、突然おむつではなくパンツで寝られるようになり、小三の真帆は小学校の持久走大会で男女合わせて学年一位、県主催の絵画展入選と大活躍。伸び盛りの中二の龍治は昨年十センチも背が高くなり、子どもたちの成長の速さ、大きさに驚くばかりです。

今年は背の高くなった我が仙道家の長男、龍治が中三となり受験生となります。志望校に向けて共に伴走し、夢に向かって努力することを後押しできればと思います。

光の中で

佐藤家

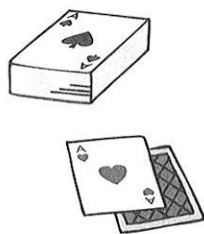
あけましておめでとうございます。今年もよろしく願います。

昨年の十一月、佐藤家でキャンプに出かけました。車で一時間ほどのキャンプ場でコテージを二棟借り、一泊しました。到着後すぐに準備に取りかかり寒空の下、火を囲みながら皆でバーベキューをしました。晩秋の森の中で食べる夕食は、何とも言えない良い雰囲気でした。夕食後はそれぞれコテージに入り、思い思いの時間を過ごしました。私は、少々羽目を外して午前三時頃まで中学生の三人とトランプをしていました。

次の日も午前中からトランプをし、近くのうどん屋で昼食をとった後、三時頃までまたトランプをする、というトランプ漬けの四人でした。

彼らに（そして自分自身に）こう言いたい。「君達には集中する力がある。人生を賭けて何かに取り組みなさいっ！」

小西 剛史



新年明けましておめでとうございます。

原田家では中学三年生、高校三年生の受験生が日々受験勉強に励んでいます。

中三の雅は「勉強ができなくてイライラする」と思うように学力が上がらないことにプレッシャーを感じていますが、皆が笑顔になるような話題を提供し食卓を盛り上げてくれます。

高三の賢は先日開いてくれた私の誕生会で「今、プレゼントは渡せない。三月になったら大学の合格通知を持ってきます。それが俺からのプレゼントです。」と嬉しいメッセージを贈ってくれました。

この時期になってくると受験モードへ本格的に突入して不安と焦りが高まり少々不安定になってきてもおかしくないのですが、それでも日常生活の中で賑やかな年少児達を受け入れ、自分のやるべき役割を果たす姿は子ども達が本来持ち、育まれて



中川 昭雄

きた「生きる力」の証なのだと思ひ感じます。二人を始めとして、全ての子ども達が未来に希望を持てるよう、自分にできることを探し続ける一年にしていきたいです。

季節のおとずれ

市川家

新年あけましておめでとうございます。昨年皆様のおかげでたいご支援ありがとうございました。本年もよろしくお願い致します。

皆様にまた嬉しい報告をさせて頂きたいと思ひます。

二学期の終り、我が家のかわいい小学生の静一君、要君、美也子ちゃん、マラソン大会でとても頑張りました。

双子の要君、美也子ちゃんは初めてのマラソン大会。緊張と不安、そ

して一位になりたいと強く思ひながら頑張つて練習に励んでいました。

練習の時、どうしてもライバルの女の子を抜かせずに二位だった美也子ちゃんは、本番に強くライバルの女の子を抜かしダントツの一位でゴールしました。大好きな指導員のくれたお守りのおかげでしょうか。要君はどちらかというと芸術肌の男の子です。練習の時は二十七位だったのですが、本番では十四位でゴール。とても頑張っている要君はカッコいい男の子でした。

そして一、二年と惜しくも二位でゴールしていた静一君は、ずっと一位になりたいと願ひ練習を頑張っていました。力はあるのに本番でなかなか力が出ない静一君でしたが、今年は違いました。道路からグランドに入ったゴール直前の百メートルほど、四人とデットヒートの末、念願の一位でゴール。

一位になったことは勿論すごいなと感動しましたが、三人が園を食いついて長い距離を自分自身と戦い、走りきる姿がまぶしく見えました。

新しい一年、子どもひとりひとりが目標に向かって一歩一歩前に進んで行けるように、どこにいてもずっと応援していきたいと思っています。

市川 美穂

## 家族に関わる その10

菅原 哲男

特に珠恵のことについて祖父は「あの子は優しい子どもで、目に入れても痛くないと言ふことはあの子のような子どものことを言うのだろう。」と眼をうるませて言った。珠恵が内緒で祖父母宅を訪ねた時に、祖父たちは珠恵にお小遣いを渡した。もちろん実母や義父には内緒である。ところが、そのお金で様々なものを買って部屋に置いたのだが、すっかりしまい忘れて学校に行ってしまった日、偶然、義父が、珠恵が居間に置き忘れていた本などを二階の珠恵の部屋に置きに行つて、新しい見慣れないシャツを見つけてしまった。義父や実母は門限ぎりぎりに学校から帰ってきた珠恵に、「これはどうしたんだ!」と問いつめた。なかなか申し開きをしない珠恵に義父も実母も怒り狂ってしまった。とうとう珠恵は、実母の財布からお金を盗つた、と虚偽の申し開きをしたという。祖父からもらつたと言えは祖父母たちが義父に怒られ、関係がますます悪くなるだろうことを思つた珠恵の機転だったのだが、それがかえって結果を悪くした。

両親は珠恵に学校の制服以外着ては

いけないという罰を与えたのだ。バジャマまで着てはいけないことになつてしまつたのである。多分これは虐待に相当する義父やそれに賛成した実母の対応だったと今でも思うのだが、涙ぐみながら、祖父は珠恵からもらったという手紙の束を二階から持つてきて私たちに見せてくれた。それには、特に祖父に対する珠恵の「おじいちゃんありがとう。おじいちゃんたちは私の宝物です。」などという文面で切々たる思いが綴られていた。

父親を失つた娘と義父との関係の困難さと、義父よりは祖父への思いが勝つてしまふなど、ありがちな関係なのであるが、これが虐待への傾きを形成することもまた考慮に入れておかなければならないことなのである。もちろんその反対の実母を失つた息子と義母や祖母との関係なども同様の複雑さを持つものなのである。

今後の孫たちとの関係形成のために、祖父母にはなるべく実母たち家族との関係を悪くしないように留意することや、特に義父などに内緒で孫たちに何かをするというようなことではなく相談しながら良い関係をつくっていくた

めに、児童相談所や光の子どもの家を利用してくれるよう伝えてそこを辞したのだ。

その足で、県北部の隣県の中核都市に両親宅を訪ねた。義父には訪問を伝えていたが、仕事の都合で少しだけ遅れると言ふことだったので、実母と珠恵、そして異父きようだいがいる家だったが、そこにいる小一時間ほどの間珠恵がいる気配さえ感じる事がなかった。

実母は、義父との関係がそんなにうまくいっているわけではないこと、今お腹に赤ちゃんがいるが、別れて独りで育てようかとも思っていること、珠恵が何を考えているのか全く分からないこと、自分が子どもたちとお風呂に入っている時に何か持ち出されるのではないか、自分たち夫婦の部屋を物色されるのではないかと心が落ち着かなくなることなどを問わず語りに語り続けた。以前に児童相談所で初めてあつたのだが、その時とは別人のようによく話してくれた。

義父が三〇分ほどして帰ってきたことで実母の話は立ち消えになった。家庭訪問による関わりには、施設や児童相談所の面会室などでは想像できないような家族の表情や振る舞いなどがよく表現される。

家族にとって、文字通りのホームゲ

ランドなのであることがその要因の大きなものだろうと考えている。

スポーツ選手などでも、アウェーやビジターでは実力をよく発揮できないと言われている。家族もそうなのだろうと思うのである。家庭は自らにとつてまさにホームであり根拠地でもあるのだ。その場面では訪問した私たちは殆ど聞き役になることの方が圧倒的に多いことを確認しておかなければならない。

ただ、調査に行くような構えでは家族はよく語ることをしないことも心得るべきだろう。

ここでも「親戚」とか、自分の子どもを預けることが出来るような関係にある者という私たちの位置づけでなければならぬのである。そこで果たすべき私たちの役割は、それまでのその人の人生のプロセスにおける苦難や願つたようにはならない苛立ちなどを共に考えながら、「だからどうしようか」と

優れた能力のスポーツ選手でもアウェーよりはよりよく実力を発揮できるホームタウンから、いやそこで悲惨な関わりを受けてしまつた子どもたちの利益になるような人的資源への変容を促していくのである。

子どもたちの子どもたちの施設運営の生命線でもあるのだ。

## 現場から

## 続・光の子らしく②

岩崎 まり子

新年のごあいさつを申し上げます。旧年中、大変お世話になりました。今年もよろしくお願いします。

新しい年度を迎える前に萌季が一人暮らしを始めることになりました。アメリカから帰ってくる時に「どこでもいいから、そこに住まわせてくれないかな。」

と頼んできた彼女は、空いた職員宿舍で寝泊まりし、食事は佐藤家で摂るという生活をしながら都内に通勤していました。帰宅は真夜中を過ぎることもしばしばで、寒中帰ってきて、食事をしながら温まつたところでもまた玄関に出て外気にさらされ宿舎に戻る—そんな毎日は、どんな

にか負担だったろうと思います。いえ、それよりもっと負担だったのは、「措置児童」でない自分がここに「居させてもらっている」ということとや寝ないで待つている元担当者の存在だったかもしれません。

「生活費」ということで、毎月彼女が給料の中から幾らかを私に預けていたのは、その負担を自分で納得させる必要があつたのでしよう。私の母がそうしてくれていたのと同じように、私も

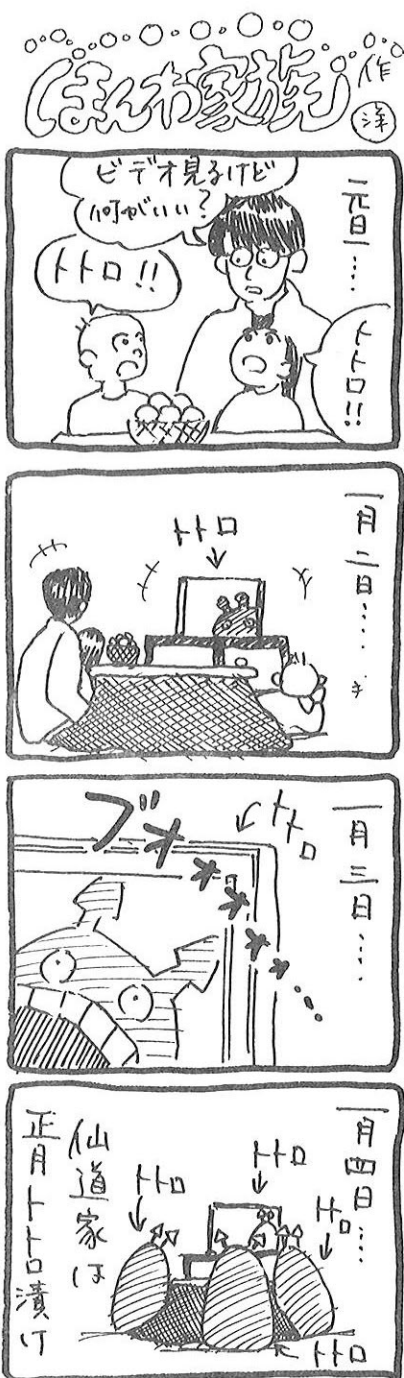
「ご苦勞様。」とそれを両手で受け取り、頭を下げて預かりました。成長の喜びと、その氣遣いに至る彼女の思いの両方を考えずにはいられません。

引越す日、彼女に預かつた分のお金を積み立てた通帳を手渡ししました。

「えっ、何で?」  
「菅原先生がそうしておけて言ってくれたから。」

人と人が暮らし合う中では、悪いなあ、「申し訳ないなあ」という思いと「ありがどう」の思いは表裏一体なように思います。どちらも否定せず、積み重ねていけたらと願います。

さて、一人暮らし。保証人の件では小さな事件がありました。当時、卒園生の手術のこともあり、子どもと私たちの関係性とは別にやはり、親族との関係の必要性も身にしみていた私は、「菅原先生に」と言っていた彼女にも彼女の父親にお願いするよう勧めました。すると彼女は「私の親権者って誰?」



と尋ねたのです。ああ、そういう考え方をするんだ」と改めて思いました。頼みやすい家族」という感覚。私たちは、まさしくそれを目指してきたのです。けれど、世間に出た途端、法的な家族「がクローズアップされてきます。二十数年間揺れ続けていたであろう親族への思いは、彼女の中で内在的にいつも複雑に絡み合つて居座り、それでもある程度納得できるまでに決着がついていた今、保証人を巡つて親族の「帰ってくればいいじゃない。」という言葉に憤り、傷つく萌季でした。「『ありがどう。でも今は、自分の可能性を試してみたいの』とか言つたらいいのかな。」という私の提案に「そんなことが私ができると思う?」と苛立つ萌季。何度も何度も自分なりの家族とのつき合い方を考えなければならぬ彼女たちの努力は、決して無駄なことではなく、むしろ糧になっていると信じています。彼女自身にもそれをわかつて欲しいです。皆様にとってこの一年が良い年になりますように……。



日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 =

8月1日▶平成17年9月末日

2005年8月

幼児5名 小学生15名 中学生7名 高校生9名 措置外6名  
計42名

2日~4日

幼児グループ神栖の海へ 根本様宅でお世話に  
海水浴! バーベキュー! ニコニコの日焼け顔

5日~6日

東大宮教会夏期学校へ中高生参加  
富弘美術館見学とスポーツ交流

8日~12日

- グループホーム・原田家神栖へ根本様宅でお世話に  
海釣り、波乗り挑戦! 夜は花火大会へ
- 佐藤家秋田へ 小西様宅でお世話に  
絶えない笑顔、楽しく忘れられない夏の思い出

9日~12日

仙道家湯河原海水浴へ 府川様宅でお世話に  
ボディボード砂遊び貝拾い海三昧の4日間

7日~お盆帰省

25日 田村様来訪散髪奉仕 感謝

26日~27日

聖学院大学ワーク16名来訪夕食会

30日 夏休みさよならパーティー

カリフォルニア大学研修生お別れ会

<8月の物品ご寄贈者>

佐藤由香 松本明子 鈴木治夫 市川輝彦 市川美津子 中村  
利雄 国分梨園 丹羽倫己 長沼 小島 島崎なぎさ 斉藤布  
団店 小島勝子 他多数の各位様

9月

- 1日 2学期始業式夏休みの経験を豊かに実らせる秋に...
- 5日 渡部かずき記念会礼拝後会食 原道小元同級生20名  
来訪かずきを偲び命の大切さを心に刻む
- 9日 萬屋様から鰻を沢山いただき食卓が潤う 感謝
- 10日 佐藤家那須野が原公園へ外出芝生広場でのんびりと
- 14日 大利根中学校との連絡会
- 17日 原道小学校運動会 徒競走、ダンス、リレー  
練習の成果を披露みんな大活躍

20日~自立支援計画見直し開始

成長を喜び課題克服への関わりを全職員で確認

24日 大利根中学校体育祭情熱の組体操四段タワー完成!

26日 熊谷児童相談所所長来訪

27日 卒園生沙慧就職内定新生活への第一歩

29日 田村様来訪散髪奉仕 感謝

<9月の物品ご寄贈者>

石川 野本百合子 横村スミ子 小島勝子 酒匂ひとみ 国分  
梨園 小野ゆういち 戸田幸男 他多数の各位様  
感謝してご報告致します。(くら)

////// ———— 反 射 光 ———— ////

☆賀正☆これまでのご支援に心から感謝☆この年も祈りとお励ましのなかで豊かな子どもたちの成長を願うことしきり☆二一世紀を「ミレニアム」と言い換え多少の期待をこめて迎えて六回目の新年である☆昨年は、この国の狂い方が尋常ではないことを皮膚感覚で押しつけられた年であった☆特に子どもたちの状況は、道草を楽しんだ登下校が遠い異国の昔話のように思えるほどに危険をはらみ悪化と狂気のなかにおかれている☆ともかく、安心や安全が普通に存在する国ではなくなるのにあまりにも急激で身構えの刻さえ持てなかった☆その最も重篤な犠牲者である子どもたちなどへの配慮は何とも貧しい限りである☆社会福祉関連予算の三、八%が児童福祉関連予算でありこれも改善の目処がないばかりか、意味不明の三位一体改革で市区町村の首長の意志次第でいくらかでも削ることが出来るようになるのである☆そうかこれが現実か!それならばもう一度!と空元気でこの年を迎え撃ちます!(哲)